

取組名称	昔の暮らしにならい、環境になるべく影響を及ぼさず生きる―それを「現実的な選択肢」へ			団体設立後の経過年数	12 年
応募取組主体名称	そこそこ農園	活動地域	和歌山県那智勝浦町色川地区	応募取組の活動年数	12 年
取組主体の種別	企業／学校／NPO・任意団体／自治体／地域コミュニティ／ <u>個人</u> ／ユース部門（概ね 30 代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください）／その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞／子どもエンパワーメント賞／環境と福祉賞／ <u>環境地域ブランディング賞</u> ／環境ひとづくり賞／環境社会イノベーション賞／ <u>地球と人への想いやり賞</u> ／ SDGs ビジネス賞／ <u>EXPO2025 いのち動的平衡賞</u>				



取組の要旨
昔の暮らしにならい、できるかぎり環境に影響を及ぼさず生きようと、山里の古民家に住み、田畑を耕作し、他所からなるべく持ち込まず他所になるべく捨てず、近隣住民と協力しながら小さく暮らしている。とはいえ現代日本で波及するよう、究極を目指すのではなく「そこそこ」に一誰にでもできる、難しい技術の要らない、楽しく無理のないところを目指し、こんな生活を選ぶ人が増えるようにと、体験希望者や取材を随時受け入れている。
実績の要旨
夫婦と子ども 2 人の 4 人家庭で、電気消費量、日常の買い物、ごみ排出量など環境負荷を表す指標は、おおむね日本平均の 1/6～1/10。今まで 50 件 100 人以上の体験・滞在を受け入れ、うち 4 世帯が近所に定住した。県移住促進 HP や雑誌、TV などの取材を受け、また Facebook を通じて、こうした生活が十分に実現可能かつ快適であることを発信し続けている。

取組評価の要旨	環境への貢献	気候変動、生物絶滅、プラごみ等、環境へのあらゆる影響を、根本的全面的に抑える生活を実践・提案している。
	社会・経済への貢献	現代日本から失われつつある「ここにあるもので生きる力」を残し、次につなぐことに意義があると考えている。
	地域資源の活用	地域資源で生きることそのものが取組内容。棚田の耕作、間伐材を薪や小屋の材料に、沢水を生活用水や熱中症対策の水浴びに、等…
	普及・汎用性	非現実的とされがちだが、つい数十年前までの「当たり前」。誰にでもできるはずのこと、そのありのままを発信している。
	革新・ユニーク性	現代日本で真正面から取り組む人が、今は少ない。個人的な挑戦に留めず、波及を目指している点も特徴と考えている。
	継続性	そもそも自給的な生活こそが、多くの面において、都市での一般的な現代生活と比べて持続的だと考えている。

展望の要旨	今まだできていない部分の自給に挑戦しつつ、さらに多くの人にこうした生活の可能性を伝えていく。
-------	--